

第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定に向け、学識経験者や地域、福祉保健団体等を代表する委員の皆様にご意見をいただきました。今回はこれまで議論をしてきた、「3つの基本目標」と「5つの大切なこと」を決定し、シンポジウムでの発表に向けて地区別計画策定指針を検討しました。また計画の冊子の構成や記載内容についてご意見をいただきました。主なご意見について、報告します。

3つ基本目標と5つの大切なこと

※別紙参照

⇒ご意見いただいたいくつかのキーワードについて、記載方法を事務局で検討し最終決定していくことで、了承を得た。

- ☆第2回策定懇談会で出た意見を上手に盛り込み、配慮のある文章になって気持ちが良い。
- ☆子どもや子育て支援の言葉が盛り込まれ、子どもにみんなの視点が向けられた。
- ☆説明文の語尾が「重要です」から「目指します」と変わり、みんなが参加できる計画になったと感じる。
- ☆道路整備や環境整備について触れられていないがどうするか？⇒本冊で掲載できたらと考えている。

全体

- ☆「皆が気づき」とあるが、「みんなでつくるみんなのしあわせ」が理念になっているように、「皆」を「みんな」とした方が柔らかく受け入れやすいのではないかと。

キーワード

皆

- ☆「皆が気づき」はわかりやすいが、理解までは難しい。地域の中に様々な人が住んでいることを知って欲しい。

理解

- ☆「活躍」は、「勢いよく、めざましく活動すること」と辞書にあり重みのある言葉。ハードルは高く感じるが、まずは、参加して一緒にやろうと進めていかなければと思う。
- ☆活躍に込められた思いを、本冊の中で「それぞれの立場でできることを」と説明があるので良いと思う。

活躍

- ☆居場所は狭い意味の特定の場所ではなく、まち全体がのびのび生活できる場所と考える。
- 居場所だと特定の場がイメージされ、使い方に違和感がある。広い意味で使える表現はないか？

居場所

- ☆「居場所」を「地域」「まち」「交流の場」と置き換えてはどうか？
- ☆狭義の意味で「居場所」、広義の意味で「参加の場」「暮らしの場」と解釈したらどうか？
- ☆本冊で「居場所」の説明を「建物や空間だけを指すのではない」とあるが、もう少し踏み込んでみんなの住むまちを、みんなが安心して暮らしやすい生活空間であることを説明に加えて欲しい。
- ☆これまで居場所とは、部屋や建物として考えられてきたので、それを脱皮するという意味でも住みやすいまちが、みんなの居場所というようにしっかり記載をいただきたい。
- ☆「居場所」はその人が安心できる場所なので、必ずしも建物や固定空間の意味ではない。人生の居場所として、幼少期は学校、働いている時は職場、高齢になると地域ともいわれる。広い意味があることを冊子の中で説明されているのでこれで良いと思う。「居場所」のキーワードは残したい。
- ☆「居場所」は空間も含めてとあるが、実際には場所や建物がないと活動が成り立たない。

大切なこと

- ☆大切なこと③を「安心できる居場所づくり」に変えたことで柔らかい言葉となり義務感なく受け入れられる。
- ☆大切なこと④に関連し、ネットワークづくりのためには、声をあげることやしかけ、しくみが大切。

地区別計画策定指針について

→概ね了承を得たが、いただいたご意見を参考に事務局で検討し、修正・追記を行ったうえでシンポジウムにて発表していくこととした。

- ☆普段やっている活動が、地福であるということを指針にもう少し盛り込んでいただきたい。
- ☆地区別計画を「計画のための計画」ではなく、地域で続けている活動の中にあるものとして考えたい。
- ☆マンガのセリフは、もっと素直な気持ちを表現する方が良いのでは？
- ☆町内会の方が、計画に入りやすいように運動会やお祭り等具体的な取組が表記されたページがあると暮らしやすいまちがどのようなものか伝わるのでは？

計画 冊子について

→基本目標に込められた思い・意味についての説明を丁寧に記載し、基本目標と大切なこととの関係がわかりやすく説明できる具体例について今後検討。表紙のデザインも工夫していく。コンセプトは広く区民のみならず関心をもってもらえるように、「誰にでも読みやすくわかりやすい」「イラストを増やし視覚的にイメージできる」こととした。

- ☆表紙の地域福祉保健計画という言葉が硬い。「暮らしやすいまちづくりの計画」が目立つ方が良い。
- ☆「地域福祉保健計画」は小さく、「みんなでつくるみんなのしあわせ」「暮らしやすいまちづくり」を大きくした方が良い。
- ☆「暮らしやすいまちづくりプラン」という名称はどうか。
- ☆基本理念をイラストで表現したものを冊子の表紙にしたらどうか？

表紙と表題

- ☆現状と課題についての資料はどのようにするのか？
 - 第3期の振り返りで出てきた課題や区民意識調査、団体ヒヤリング、策定懇談会での意見を掲載していく。
- ☆一部の意見を聞いて進めるのではなく、調査等に基づき広く区民の考えていることに対応することが大切。
- ☆補助金についての一覧表を参考資料に入れてもらえると役に立つのでは？
- ☆災害時要援護者のことをどこかに盛り込んでほしい。災害時に隣近所で声をかけ合う取組ができれば。

内容について

- ☆障害のある方に対して、「してあげる」という表現は違うと思う。
 - 具体的な例示は、わかりやすい一方で、一人ひとりの個性を認めることの例示の難しさを改めて感じる。
- ☆障害のある子の支援を事例で取り上げられたのは嬉しいが、内容について、障害当事者の会にも意見を聞きたい。
- ☆第1期からの変化として、障害の分野の取組が増えてきたと思うので、取り上げていただけるとありがたい。作業所などは、これまであまり地福を意識してこなかったが、自分の事業所がどんな関わりができるかと考える視点が必要。ネットワークの強化に事業所も一緒に考えるヒントとなる事例が掲載できると良い。
- ☆基本目標と大切なことが縦軸横軸の関係でマトリックスになるように交差し、内容が具体的に説明されている。

5つの大切なことの掲載方法

第4期 瀬谷区地域福祉保健計画

【基本理念】 みんなでつくる みんなのしあわせ

基本目標Ⅰ “おたがいさま” で支え合う地域づくり

見守り、支え合いは、居場所づくりや交流の取組によって大きく前進してきました。第4期計画では、認知症の人、障害のある人、生活に困っている人等、様々な人が地域で生活していることを皆が気づき、理解し、支える側・支えられる側を分けることなく、孤立している人がいない、皆で支え合う“おたがいさま”の地域を**目指します**。

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

これまでの健康づくりの取組によって、健康意識の向上や地域活動など人と人とのつながりも広がってきました。引き続き第4期計画でも、誰もが自分らしくいきいきと過ごし、年齢に関係なく、お互いが理解し合い、元気で生きがいを持って生活することを**目指します**。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

これまでの取組を通し、地域の身近な参加の場として、子育て支援、高齢、多世代交流などのサロンやこどもの居場所などが広がってきました。これからは、**これまで参加が少なかった若い人や男性等にも地域を知ってもらうきっかけ作り**が大切です。そして、**地域で暮らす誰もがそれぞれの立場で活躍できる居場所や仕組みづくり**を**目指します**。

♡基本目標を実現するために大切なこと♡

①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり

こどもから大人まで、認知症や障害の有無、国籍や性別に関わらず、一人ひとりを大切に多様性を認め合**いましょう**。

②健やかにこどもが育つ環境づくり

こどもがのびのびと安心して暮らせるまちを**目指し**、地域でこどもを育てると**いう風土**をつくりましょう。

③幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり

誰もが社会参加できる居場所を**みつけられるような機会**をつくりましょう。

④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり

現在、様々な支援機関や団体、学校、企業があり、地域住民とのさらなる協働が求められています。情報の共有や発信、地域資源の活用などネットワークづくりを**すすめましょう**。

⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

本当に困っている人が、孤立せず、支援につながられるよう、誰もが住みやすい社会をつくりましょう。